

令和4年度 東京都立墨田川高等学校 学校経営計画

東京都立墨田川高等学校長
渡邊 範道

1 目指す学校

(1) 教育目標

- 知性 — 明澄な知性
- 創造 — 創造への努力
- 自主 — 自他の敬愛と自律の精神

(2) 教育目標を達成するための基本方針

本校は、東京府立第七中学校として設立以来、百年を迎える歴史ある伝統校として、新たな社会を切り拓くリーダーの育成を期待されている学校である。教科の学習により得るものと特別活動で得るものを一体として、高潔な人格を育て、府立七中・新制都立七高・都立墨田川高校と継承されてきた全人教育の伝統を踏まえた教育活動の充実、発展を図っていく。

また、本校は進学重視型単位制高校及び進学指導推進校として、国公立大学や難関私立大学への進学の実現に向けて、新たな学びに取り組む学校である。教育目標を達成するために、以下の基本方針で教育活動を行う。

- ア 明澄な知性を育み、創造に努力する姿勢を育てる。
 - 知性に対する強い欲求と偏らぬ視野をもつ人間を育てる。
 - 創造のために高さを求め、情を愛し、工夫と努力を惜しまぬ態度を養う。
- イ 知性、創造性、自主性の基盤となる健全な心身を育む。
 - 健康な生活を送らせ、健全な心身を育む。
 - 清楚で清浄な生活態度を育てる。
- ウ 自主精神を重んじ、人権尊重の精神に基づき自他を敬愛する態度を養う。
 - 自分の言動に自主性と責任をもつ人間を育てる。
 - 自分とともに他者を敬愛する姿勢及び、豊かな情操と道徳心を培う。

(3) 東京都教育委員会により課されたスクール・ミッション

明澄な知性、創造への努力、自他の敬愛と自律の精神を教育目標とし、生徒自身による「学びのサイクル」の実践で、高い学力を身に付け、進路希望の実現を図り、様々な教育活動を通して創造意欲・協働意識を高め、新しい社会を切り拓くリーダーにふさわしい能力を備えた生徒を育成します。

(4) スクール・ミッションに基づき校長が定めたスクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

- 自ら課題を発見し、論理的な思考を基に自らの人生を主体的かつ計画的に切り拓いていくことのできる資質・能力を身に付けます。
- 人々の多様性を認識し、互いに尊重することで、より良い社会的成果を生み出している資質・能力を身に付けます。

イ カリキュラム・ポリシー

- 必要な情報を整理・活用し、課題の本質を捉えて、自己の学びのサイクルを実践し、主体的かつ論理的に思考することができる能力を育てます。
- 自他の特性を活かし、困難な状況においても、課題解決に向けて解決策を創造・提案し、他者との協働を通して実現を図ることができる能力を育てます。

ウ アドミッション・ポリシー

- 学びへの強い興味・関心があり、目標に向かい、あきらめずに継続的に努力できる生徒を求めます。
- これまで授業以外の教育活動にも意欲的に取り組み、本校の教育目標を理解し、これからも意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 生徒の希望する大学進学を実現するための学力の伸長【学習指導】

- ア 授業を基本とした予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」を定着させ、大学入学共通テストに対応できる学力の獲得を目指す。
- イ 習熟度別授業や少人数指導、多様な選択科目の設置等単位制高校の特徴を生かし、基礎・基本から鍛えるきめ細かい学習指導を通して、生徒一人一人の学力を各教科が責任をもって高めていく。
- ウ 校内研修や教科会、科目担当者の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業が展開できるよう、計画的な教科研修による組織的な授業力の向上を図る。

(2) 3年間を見通した進学指導マネジメントシステムの確立【進路指導】

- ア 進路指導部と学級担任、科目担当者、教科主任との連携を更に強化し、進学指導方法や内容の統一性を高めるなど進路指導部を中心とした組織的な進学指導を推進する。
- イ 将来の生き方を考えさせる進路指導を入学時から体系的・組織的に行い、3年次の5月までに生徒の志望を決定させるなど、3年間を見通した進学指導計画をいずれの年次においても確実に実施していく。
- ウ 入試結果や定期考査、学力テスト、外部模試等の分析と定点観測を行うとともに、外部模試や進路面談等の積極的な活用により、生徒の進学希望に応じた丁寧な科目選択指導や受験校決定に向けた指導を行う。
- エ 自主学習教材の活用を推進し、1年次から家庭学習の充実を図るとともに、進路に関する手帳等を活用し、計画的・自発的な家庭学習を定着させるよう指導していく。

(3) 進学に向けた学習と学校行事・部活動を両立できる生徒の育成【生活指導・特別活動】

- ア 生徒の自主的な活動を通して、創造意欲を高め、新しい社会のリーダーにふさわしい指導力とコミュニケーション能力を培うとともに、集団の中で個性を育み、自主性や社会性、規範意識を高められるよう指導する。
- イ 競技会参加、地域や関係機関との交流、発表等を通して、本校のよき伝統や校風を自覚させ、技術・技能の習得だけに留まらず、生徒の社会性、自己有用感、帰属意識や一体感を高める活動となるよう指導する。
- ウ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づき、活動方針と活動計画を明確に定め、進学を目指す公立高校として、学習とのバランスを保つ部活動を実践する。

エ 学校行事・部活動における安全教育を推進し、事故防止に努めるとともに、体罰を根絶し健全な指導を展開する。

(4) 生徒の人間性の伸長を図る教育活動の充実【健康・安全教育指導】

ア 学校の教育活動全体を通して人権意識を高め、自分を大切に思う心、他者を大切に思う心を育むとともに、他者と協働する機会を増やし、自己理解・他者理解を促進し、多様性を受容できる資質を培う。また、生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめや暴力等を断固許さない指導を徹底していく。

イ 特別な配慮や支援が必要な生徒に対して、合理的配慮のもとで可能な支援をしていくとともに、スクールカウンセラーやユース・ソーシャル・ワーカーと連携し、教育相談体制の充実を図る。また、命の大切さの指導を行うことにより、自殺予防等の取組みを行う。

ウ 生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、心身の自己管理能力を高めるために、保健体育科の授業や部活動において体力の向上を図るとともに、家庭や警察署等関係諸機関と連携した健康・安全教育を推進する。

エ 大規模災害に対応するために、避難誘導等の体制を準備するとともに、関係諸機関と連携し、生徒の安全確保を最優先した防災対策を推進する。

(5) 本校の良さを理解し、意欲の高い生徒を獲得するための生徒募集対策の積極的展開【生徒募集・広報活動】

ア 100年の歴史と伝統を有し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校としての本校の特色を生徒・教職員が理解するとともに、中学生とその保護者及び地域に対し、的確な情報を効果的に発信し、本校を第一志望とする意欲ある優秀な生徒を獲得する。

イ 志望動向や入試情報の分析、中学生とその保護者の意見等を真摯に受け止めることにより、効果的で戦略的な募集活動を推進する。

(6) 組織的・計画的な学校経営の継続と教育環境の整備・充実【学校組織運営】

ア 分掌・教科・委員会等が組織的に機能する運営体制を整備し、企画調整会議を中心とした学校経営をより一層推進する。

イ 中・長期的な人事構想に基づき、計画的な人事配置を図り、教育活動を積極的に推進・改善できる指導体制を構築する。

ウ 学校運営連絡協議会、PTA（美汀会）、同窓会（墨水会）、関係機関、スクールカウンセラー、外部専門家、地域町内会等による教育活動評価を活用し、学校経営や教育活動の検証・改善に努める。

エ 教員の資質・能力を向上させ、実践的指導力のある教員を育成するため、「東京都教員人材育成基本方針」及び「OJTガイドライン」に基づき人材育成を一層推進していく。特に、新規採用教員をはじめとする採用後3年未満の教員については、「東京都若手教員育成研修」を中心に、校内において計画的な人材育成を行っていく。

オ サービス事故や体罰、個人情報等の紛失等の事故の発生により、生徒、保護者、都民の信頼を損なうことのないよう、サービス事故防止研修を実施し、サービス事故と体罰の根絶に努める。

カ 「ライフ・ワーク・バランス」の推進について、「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図るよう努めていく。

キ 自律経営推進予算を有効に活用するとともに、東部学校経営支援センター支所と連携し、教育環境の整備・改善を図る。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策【数値目標】

(1) 学習指導

- ア 生徒の「学びのサイクル」の定着を図り、授業理解度と満足度を向上させる。
- イ 生徒一人一人の学力を大学入学共通テストの得点率7割を獲得する水準に高めるため、日頃の授業、特に習熟度別授業や少人数指導及び特別講座、補習等の一層の充実を図る。
- ウ 校内研修会や教科会、科目担当者間の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業力の向上を図る。特に5教科のすべての教員は、大学入試問題の分析を行うとともに、外部模試の結果等を分析し授業改善を図る。
- エ 国公立大学受験に対応できる教育課程とするために、新教育課程の点検や検討を継続的に進めるとともに、本校生徒の実態に適合するように不断の見直しを行う。
- オ ICTを活用した教育を推進し、研修等において効果的な活用を検討していく。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	2年度実績	3年度実績	4年度目標
学校評価アンケートで「墨田川高校の授業は分かりやすい」とする生徒の割合	該当設問なし	74.1%	80%以上
学校評価アンケートで「墨田川高校の授業は進学や受験に向けた内容となっている」とする生徒の割合	64.3%	78.1%	85%以上
大学入学共通テストで7割以上得点した3年次生の割合	22.8%	19.4%	35%以上
大学入学共通テスト模試で6割以上得点した2年次生の割合	令和4年度から新たに設定		50%以上

(2) 進路指導

- ア 昨年度の進学実績を踏まえ、国公立大学二次試験対策を強化するとともに、後期日程の受験を促進する。
- イ 新学部・学科、入試方式の変更等の進学に関する情報発信を充実させるとともに、難関私立大学受験対策を強化する。
- ウ 長期休業中の講習等は、講義内容が具体的な大学入試科目の内容やレベル等に対応していることが明確となるよう工夫するとともに、部活動との両立が図れるように提示する。特に、夏季休業中の開設講座は、生徒が休業中の計画を立てやすいよう5月中に提示する。
- エ 入学時からのキャリア教育を充実させ、学部・学科選択や志望校合格に向けた学習意欲を向上させる。
- オ 生徒の知的探究意欲向上のため、国公立大学との学びの連携に向けた模擬講義等を実施するとともに、指導部高等学校教育指導課の「志」育成事業や大学主催のフォーラム等の情報を積極的に発信していく。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	2年度実績	3年度実績	4年度目標
国公立大学現役合格者数	35名	27名	35名以上
難関私立大学(早慶上智理)現役合格者のべ数	23名	36名	35名以上
私立大学(GMARCH)現役合格者のべ数	75名	109名	100名以上
学校評価アンケートで「墨田川高校では自分の将来を考えるために、必要な進路指導が行われている」とする生徒の割合	71.1%	77.4%	80%以上

(3) 生活指導・特別活動

- ア 生徒会や委員会活動において、生徒の自主性、自律性、規則性を高めるために計画的な指導を行うとともに、ホームルーム活動や学校行事を通して学校生活の満足度を高める。
- イ 都立高校生活指導指針を踏まえ、学校のルールを厳守した節度ある生活を指導するとともに、学校行事や委員会、部活動等の指導において、挨拶や服装等の指導の徹底を図り、時間を大切にされた品位ある学校生活を確立するよう指導する。
- ウ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づき、顧問教諭と生活指導部が連携し、部活動と学習とのバランスを保つよう指導する。
- エ 学校行事や部活動の大会終了後、生活指導部と学年担任団が中心となり、学習環境を整え気持ちの切り替えを促すなど、生徒がメリハリのある学校生活を送れるよう指導する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	2年度実績	3年度実績	4年度目標
学校評価アンケートで「墨田川高校での自分自身の生活は充実している」とする生徒の割合	73.1%	79.2%	85%以上
学校評価アンケートで「墨田川高校では、服装、挨拶、遅刻の防止、通学時のマナーなど生活態度をしっかりとさせるための生活指導が行われている」とする生徒の割合	67.2%	82.2%	85%以上
学校評価アンケートで「墨田川高校では、生徒による自主的・自発的な活動が行われている」とする生徒の割合	該当設問なし	72.4%	85%以上
学校評価アンケートで「墨田川高校では、部活動は活発だ」とする生徒の割合	73.3%	77.2%	85%以上

(4) 健康・安全教育指導

- ア 「東京アクティヴ・プラン」を参考にし、保健体育科の授業や部活動において、生徒の体力向上に取り組む。
- イ 体罰根絶といじめの総合対策に基づいた生徒アンケートを年間3回実施し、結果の適切な分析を行うとともに、必要な場合には迅速・適切な対応を行う。
- ウ 特別な配慮を必要とする生徒を適切に支援するために、年間10回以上の特別支援委員会や前後期各1回以上のケース会議を実施し、生徒の状況の把握等情報の共有化を図る。
- エ 「総合的な探究の時間」やホームルーム、「命の講話」などの機会を通して、命の大切さについて考えさせるとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、いつでも悩みを相談できる体制を整える。また、「いじめ調査アンケート」の実施などあらゆる手段を講じて自殺の未然防止を徹底する。
- オ 食物アレルギーや食生活の自己管理を通じた健康の保持増進を図る。特に、宿泊を伴う学校行事に際しては、食物アレルギーのある生徒情報の共有を徹底し、組織的対応力を向上させる。
- カ 警察署と連携したセーフティ教室や消防署と連携した避難訓練等の体験活動を通して、安全や災害に対する意識を高める。
- キ 通信機器等の適切な使用を指導するとともに、近隣の小学校等において、生徒による啓発活動や普及を行う。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	2年度実績	3年度実績	4年度目標
学校評価アンケートで「墨田川高校では、自分の悩みなどを相談できる先生がいる」とする生徒の割合	該当設問なし	55.9%	70%以上

(5) 生徒募集・広報活動

- ア 総務部の企画による全校体制での組織的・計画的・戦略的な生徒募集対策と広報活動を推進する。その際、本校生徒の考える本校の「よさ」と生徒自身の「よさ」をより効果的に伝えられるよう工夫する。
- イ 志望者の多い地域(区)及び地元墨田区の中学校、学習塾を積極的に訪問し、本校の魅力を効果的に伝達する。
- ウ 学校見学会、学校説明会等の企画について生徒を中心として充実させるとともに、自校作成問題対策会等において、志望者の不安を解消するために、自校作成問題の意図や試験対策を分かりやすく伝える。
- エ 学校ホームページをリニューアルし、きめ細かく情報を提供するとともに、本校の教育活動の魅力を積極的に発信する。

▼ 数値目標

項 目	3年度入試実績	4年度入試実績	5年度入試目標
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定（第1志望）調査の志望倍率	0.86倍	1.10倍	1.30倍
推薦に基づく選抜応募倍率	2.52倍	2.64倍	3.00倍
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1.05倍	1.27倍	1.50倍
学校見学会、学校説明会、高校入試ガイダンス、自校問題対策会、夏季休業中の学校見学会、放課後の学校説明会、塾対象説明会での来校中学生・保護者・教員等のべ数	中学生 690名 保護者・指導者等 488名	中学生1413名 保護者・指導者等 948名	中学生1600名 保護者・指導者等 1000名

(6) 学校組織運営

- ア 校務分掌における役割分担の明確化と複数担当制の推進により、責任の所在を明確にしたミスのない校務運営を実現するとともに、業務内容の精選とマニュアル化を進め、校務の効率化を図る。
- イ 学校運営連絡協議会の意見や学校評価アンケートの結果を校務改善に有効に活用するとともに、教科や分掌における半期ごとのまとめを内部評価として次の半期への改善計画を立案・実施するなど、校務におけるPDCAサイクルを機能させる。
- ウ 分掌等の支援による学年業務の軽減や副担任機能の強化による担任業務の軽減など、相互に協力し合う職場風土の醸成に努める。
- エ 校務の効率化を図るとともに、学校閉庁日の完全実施や週1日の「マイ定時退勤日」の設定を奨励するなど、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進する。
- オ 情報セキュリティに対する教職員の意識向上、教育公務員としてのサービスの厳正について指導を徹底するサービス事故防止研修を年間5回以上実施し、体罰やサービス事故の根絶に努める。
- カ 効率的に予算を執行するとともに、センター執行率の高い効果的な予算編成を行うとともに、学習環境の整備と効果的な生徒募集対策のために、施設・設備の点検や修繕を要望していく。特に、校舎の老朽化に伴いトイレ等の施設改修を要請する。

▼ 数値目標（アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合）

項 目	2年度実績	3年度実績	4年度目標
一般需用費の学校経営支援センター契約集約の割合	54.7%	56.8%	60%以上
学校評価アンケートで「墨田川高校の教室や体育館、グラウンド等の施設・設備は整備されており、学習環境が整っている」とする生徒の割合	26.5%	48.5%	50%以上

以上